

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	音楽Ⅰ Tutti+（教育出版）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育みます。 ①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。 ②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。 ③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。 ④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。 ①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。 ②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。 ③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。 ④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

・発声の仕方や各楽器の基本的奏法を習得させ、表現する楽しさを味わわせる。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫させる。 ・様々な音楽を演奏・鑑賞し、それぞれのよさや面白さを味わうことで音楽的視野の拡充を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・実技発表での技能や表現の分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組の観察 ・実技発表での技能や表現の分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業や実技発表への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	・オリエンテーション	・年間計画・授業で心がけること	・年間計画や、授業の取り組みについて理解する。	1	・実技発表 ・ワークシート ・授業の取り組み ・提出物
5	・J-POPや歌謡曲を歌う ・イタリア語で歌う	・校歌・君に届くまで・優しいあの子・少年時代・0 sole mio	・曲想を理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意し、表現を工夫して歌う。	7	
6	・ピアノを演奏する	・初心者用の曲	・ピアノの基本的奏法を身につける。	6	
6	・声の魅力を味わう ・器楽曲	・0 sole mio ・弦楽器、管楽器	・声の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取って鑑賞する。 ・いろいろな楽器の音色や特徴を感じ取る。	3	
7	・楽典 ・リズムで表現しよう	・音楽の基礎知識(副教材より)	・楽譜の読み方、書き方について学ぶ。 ・音素材の特徴や反復、変化、対照などの構成を生かしてリズム曲を創作し演奏する。	6	
8	・ドイツ歌曲を歌う ・日本歌曲を歌う	・野ばら ・浜辺の歌 ・椰子の実	・さまざまな言語による歌曲に親しみ、表情豊かに歌う。	11	
9	・ギターを演奏する	・カノンによるギターエチュード ・翼をください等	・ギターの基本的奏法を身に付け、旋律を弾いたり、コードの伴奏をつけ弾き歌いをする。 ・歌詞の内容を理解し、表現の工夫を味わう。	12	
10	・ドイツ歌曲の魅力を味わう ・オーケストラを聴こう	・野ばら ・魔王 ・ボレロ ・交響曲第9番(ベートーヴェン)	・詩の内容を理解し、曲の表現方法やドイツ歌曲の特徴や魅力を味わう。 ・様々な楽器が重なって生み出される美しさや壮大さを感じ取る。	6	
11	・表現を工夫して合唱する	・南海譜 ・手紙	・各パートの役割を意識し、表現を工夫して合唱する。	8	・実技発表 ・ワークシート ・授業の取り組み ・提出物
12	・ベルの響きを味わう	・クリスマスの曲等	・ベルの響きを味わいながら、協力してグループで演奏する。	7	

2	・日本とアジアの音楽に親しむ	・日本、アジアの伝統楽器	・演奏や鑑賞を通して、声や楽器の音色、旋律の特徴、歴史的文化的背景を理解する。	3	
3					

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・表現の題材では、実技発表を行います。
- ・表現と鑑賞の題材ではワークシートや課題を記入し、提出します。

8 担当者からの一言

授業は、歌唱・器楽・創作・鑑賞などさまざまな活動を組み合わせて進めていきます。
「わかる」「できる」ことは楽しいことです。少しずつ練習を積み重ねて、その喜びを味わいましょう！